

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

| |
|--|
| 倫理審査承認日：2023年11月20日 |
| 研究課題名：呼吸器疾患の胸部 CT 画像解析：多施設共同研究 |
| 研究期間：倫理審査承認後～西暦 2026年10月31日 |
| 研究対象：胸部 CT を撮影された呼吸器疾患や肺高血圧症の患者さん |
| <p>意義・目的：</p> <p>呼吸器疾患において、病気の早期発見と早期治療、病気の重症度の把握やその後の経過の予測のため、胸部 CT 画像の所見を定量的に評価することが重要です。たとえば、慢性に線維化が進行する肺疾患である間質性肺疾患において、胸部 CT における病気の広がりや病気の重症度や経過と関連する事が知られています。</p> <p>これまで CT における陰影の広がりや目視で行われることが一般的でしたが、評価者によってばらつきがあることなどが問題でした。京都大学と富士フイルムが共同で開発した間質性肺疾患の画像定量化システム (artificial intelligence based quantitative CT technology:AIQCT) によって様々な肺の陰影が自動で評価可能となり、今後診療の現場での検証が求められています。</p> <p>また、胸部 CT には骨や筋肉の画像が含まれており、骨密度や筋肉量、質などを評価する事が可能です。この研究は、呼吸器疾患の胸部 CT 画像を解析し、間質性肺疾患をはじめとする様々な呼吸器疾患を対象として肺、血管、筋肉、骨などの情報を収集し、CT の所見と病気の重症度や症状、経過との関係を明らかにする事を目的としています。</p> |
| <p>方法：</p> <p>本研究は、2005年1月1日以降、これまでに筑波メディカルセンター病院で胸部 CT を撮影された呼吸器疾患や肺高血圧症の患者さんを対象とし、画像データ、臨床データの収集・解析を行い、AIQCT を用いた呼吸器疾患の肺画像指標や骨密度、筋肉量と病気の重症度、経過の関係について検討します。学会・論文などに公表するデータは集計データであり、個人が特定されることはありません。また、本研究で得られた情報は、個人名・診察番号は記入せず個人が特定されないよう配慮します。なおこの研究への情報提供を希望されない場合には、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その患者様の情報は利用いたしません。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。</p> |
| <p>問い合わせ等の連絡先</p> <p>筑波メディカルセンター病院 呼吸器内科</p> <p>診療科長 飯島弘晃 (代表番号 029-851-3511)</p> |